
成田 達輝 (ヴァイオリン)

Tatsuki Narita, Violin

ロン＝ティボー国際コンクール（2010）で第2位および SACEM 著作権協会賞受賞、エリザベート王妃国際音楽コンクール（2012）にて第2位およびイザイ賞受賞、仙台国際音楽コンクール（2013）で第2位受賞。その超絶技巧と詩情豊かな音楽性に、「パガニーニの再来」とフランス紙で評された。

ペトル・アルトリヒテル、オーギュスタン・デュメイ、ピエタリ・インキネンなど著名指揮者および国内外のオーケストラと多数共演し高い評価を得るとともに、リサイタルやジャンルにこだわらない様々なアーティストとの室内楽においても圧倒的なテクニックと多彩な表現力を披露している。

現代作曲家とのコラボレーションも積極的に行っている。2013年サントリー芸術財団サマーフェスティバルで成田が演奏した酒井健治作曲のヴァイオリン協奏曲“G線上で”は芥川作曲賞を受賞。2017年11月には一柳慧作曲のヴァイオリンとチェロのための二重協奏曲を世界初演（チェロ：堤剛）。2022年9月には坂本龍一のヴァイオリンソナタを録音した他、カンブルラン指揮／読売日本交響楽団と演奏した一柳慧作曲「ヴァイオリンと三味線のための協奏曲」（世界初演）の公演は2022年度芸術祭大賞を受賞した。

これまでに、澤田まさ子、市川映子、藤原浜雄、ジャン＝ジャック・カントロフ、スヴェトリン・ルセフ、フローリン・シゲティ、田中綾子の各氏に師事。リリースしたCDは「成田達輝デビュー！サン＝サーンス、フランク、フォーレ、パガニーニ」（ピアノ：テオ・フシュヌレ）

海外での演奏活動も積極的に行っており、2018年、2019年には韓国平昌で行われた音楽祭に参加し、ソルム、スヴェトリン・ルセフらと共演。2018年はミンスクで行われたユーリ・バシュメット音楽祭にも参加している。

ホテル・オークラ音楽賞、出光音楽賞、上毛芸術文化賞、道銀文化奨励賞受賞。

使用楽器は、アントニオ・ストラディヴァリ黄金期の“Tartini” 1711年製。（宗次コレクションより貸与）。

（令和6年8月現在・転載禁止）